



防災情報システムで防災ラジオの導入は「カモン号」「まいちゃん号」の運用改善を

3月2日の5番目に藤田議員が一般質問を行いました。テーマは、「防災情報伝達システムについて問う」と「地域の公共交通のあり方を問う」の2点です。一般質問、答弁は次の通りです。庁舎問題の詳細は、次号で。

防災情報伝達システムについて問う

Q 戸別受信機の廃止されるなかで、「あまねく」市民に防災情報が伝達されるのか。

A 外部スピーカーの再整備、「放送内容電話確認システム」を導入する。スマートフォンやタブレットを用いた情報伝達を行うので、あまねく市民に防災情報が伝達されると考えている。

Q 高齢者、障がい者など情報弱者への対応は。

A 高齢者などのスマートフォンを持たない方で、戸別受信機に代わるものとして専用タブレットの利用を希望の市民の方には、通信料は自己負担で、最長5年間、専用タブレットを無料で御利用いただくこととしております。なお、通信料につきましては、1月当たり1千円程度になる見込みです。

Q あらたな技術が開発されれば、変更は可能ですか。

A 基本計画は、策定時点で11件のシステムについて比較検討を行った上で、携帯電話通信網を利用した情報伝達システムを決定しているため、導入システムの変更は考えていない。

Q 昨年導入された岐阜県の瑞浪市の例では、すべての家庭に防災ラジオを無償で貸与された。導入費用も安価で、防災ラジオも安価で、通信費も月50円と聞いている。真剣に検討されては。

A 防災ラジオを導入した場合の費用を、当時の検討段階においても試算をしております。瑞浪市に比べて当市の導入費用が高くなるのは、瑞浪市は地域放送への利用がないためです。当市では地域放送への対応が必要ということになり、経費がかかり、導入費が高つくということとで、採用になってないということです。※瑞浪市でも学区単位では地域放送は可能であり、防災放送に特化すれば安く導入できることを主張しました。

地域の公共交通のあり方について問う

Q カモン号の満足度が低い理由は。

A 山東地域のカモン号は路線不定期運行のため、利用者が目的地に着くまでに時間がかかることが要因となっているものと考えている。

Q まいちゃん号とカモン号の差は。

A 運行形態を比較いたしますと、まいちゃん号は目的地まで最短ルートを通るため時間が短く、一方、カモン号は路線運行のため目的地までの時間が長くなり、満足度の違いになっていると考えています。※カモン号の停留所が少なく、行先も限られていることも指摘しました。

Q 運行方式の統一化は。米原近江地域と山東伊吹地域の相互乗り入れは。

A 新公共交通システム基本構想において、相互乗り入れが可能となる運行システム、また運行費用などの検討をしていきたいと思います。

※まいちゃん号でルッチプラザに、またカモン号で文産会館に行けないことについて改善を強く求めました。またまいちゃん号が運用していない醒井地域・息郷地域の乗入も要求しました。

Q 国がすすめる「小さな拠点」とは。

A 小さな拠点は、駅、学校、市民自治センター、民間施設などを地域の核として、各集落と公共交通でつなぐことを検討したいと考えている。分散している集落をそれぞれの拠点に集めて、公共投資を集中させることではなく、周辺集落を公共交通でつなぐことによりまして、これまでより便利さを実感でき、持続可能な地域づくりを推進していきたい。

Q 高齢化が進む中でドア・ツー・ドアが必要ではないか。

A 新公共交通システムについて、市民の意見を聞いて、地域公共交通の現状や問題点、課題の整理を行い、地域全体の公共交通システムの在り方を検討します。

雑感 松崎議員の「ブログ」について

「雑感」で少し書きました。議員政治倫理条例に基づき政治倫理審査会が設けられ、審査することになりました。一方、松崎議員から鏑田議員の一般質問で侮辱されたとして、懲罰特別委員会が18日の本会議で設けられました。私たち共産党市議団は、この2つの審査会と懲罰委員会、市議会が言論の府として節度と理性を持って相互に批判を行い、市民の要求に答えていく場であるという立場から、行き過ぎた表現は批判するとしても、言論の自由は守りたいと考えています。